

"フリスト"とは？



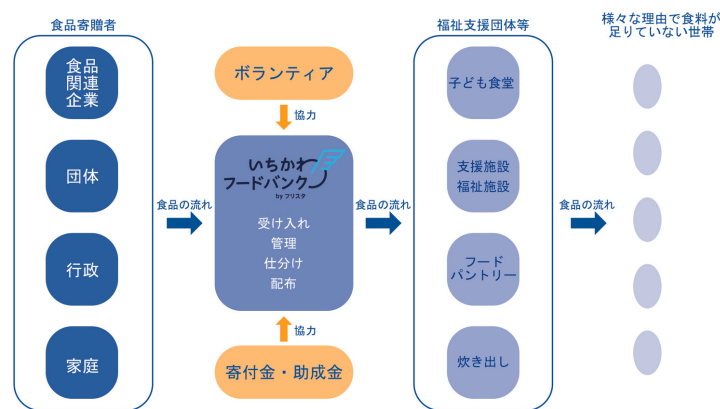
「ひとつひとつの想いをつないで市川に流れをつくる」をミッションに2020年10月に設立されたまちづくりNPO。正式名称「特定非営利活動法人フリストスタイル市川」。

多種多様なメンバーが集まり、市川市内で様々なまちづくりプロジェクトを展開するなか、翌2021年6月、フードバンク事業を開始。



フードバンクを通じたまちづくり

企業や家庭で余った食料を受け取り、賞味期限を管理・貯蔵し、福祉団体や子ども食堂、生活困窮者等の必要なところに届けます。
また、フードバンク事業をきっかけに、市内の誰もが関われる事によって、希薄になりがちな社会的なつながりを構築する事を目的に活動しています。



知ってましたか？

「フード〇〇」それぞれの意味は？	
フードドライブ	「持ち寄り」 イベントでの受付窓口や回収BOXに持ってきてもらう
フードパントリー	「おすそ分け」 食料を配布するイベントなどに来てもらい、手渡しする
フードバンク	「預かって届けるための拠点」 倉庫を持ち、寄付される食料と必要とされる人をマッチング



まちづくりNPOによる地域に根ざしたフードバンク

まだ食べられる食品を廃棄される前に集めて、必要な人に届ける事がフードバンクの活動です。

その過程では、食品を寄付したり、受け取ったり、食品を管理したり、運送したり、困窮者の方へお渡ししたり、活動費を寄付したり。色々な人が少しずつ自分にできることで関わり、食品という形のタスキを渡していきます。

わたしたちは福祉団体ではなく、まちづくりのNPO団体として、フードバンク事業を通じて、地域の多くの人にこのような「出番」や「つながり」を創出することを目的に活動しています。

それが結果的に孤立を防ぎ、住みやすい街になり、あらゆる課題解決につながるのではないかと考えています。

ご興味のある方は、お声がけください。皆さんと一緒に「いちかわフードバンク」を作っていきましょう。

大学など地元のプレーヤーと連携して啓発・普及活動を同時に進める

本事業は、千葉商科大学の助成を受け、フードバンクに関わる食品ロスや貧困問題などの社会問題に対する啓発活動なども行います。

今後、市川市の地元企業や、行政機関、文教施設との連携をさらに進め、フードドライブやフードパントリー等の活動がより身近なものになるように、啓発・普及活動を実施していきます。

「フードバンク事業を通して、たくさんの顔が見えるつながりが生まれば、多くの地域課題を解決できる」



食品を集める

アンカー市川（市川市真間2-16-12）にて、食品や日用品の寄贈をお受け取りしています。また企業や行政より、小売店舗などでの販売はできないものの、品質に問題のない食品や、災害備蓄品などを寄贈いただいたり、他地域のフードバンク団体との横の連携から受け入れを行うなどして、これまで(2021年6月に事業開始後の約5カ月間)累計約12.6トンの食品をお預かりしました。

地元の手作り作家さんの作品を販売し、売り上げの20%を事業の活動費とするチャリティショップの運営などにより、寄付金も集めています。

食品を届ける

毎月第2土曜日にアンカー市川とgate.妙典にてフードパントリーを定期開催し、これまで計51世帯のご家庭に食品や日用品をお渡ししました。

また、市内の子ども食堂団体、福祉施設、市の生活支援課、他地域のフードバンク団体など約23団体に対し、累計約8トンの食品を提供しました。

集まった寄付金を地域通貨や子ども食堂チケットとして発行し、利用できるような取り組みもはじめています。

活動を広げる

地域の皆さんがつながりの「わ」に参加していただけるよう、活動をWebサイト、SNS、新聞などのメディアより発信しています。

いちかわ
フードバンク
by フリスト

